



株主の皆様へ

第126期 報告書

2021年4月1日 ▶▶ 2022年3月31日

A large, decorative graphic on the right side of the page. It consists of several overlapping, curved bands in various shades of blue, from light cyan to dark navy. The bands are curved to follow the shape of a globe or a large sphere. The text "Heavy Duty Sacks", "Flexible Containers", and "Plastic Film Products" is written in white, sans-serif font along the curves of the bands.

Heavy Duty Sacks
Flexible Containers
Plastic Film Products

昭和パックス株式会社

新中期経営計画「PAXXS 企業価値向上を目指して

株主の皆様におかれましては、平素格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループ第126期（2021年4月1日～2022年3月31日）の事業概況をご報告するにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

第126期の業績について

当社グループの第126期におきましてはコロナ禍に左右される状態が続く中、売上面では自動車をはじめ国内の工業生産が順調に回復してきたことに伴って、重包装袋部門の合成樹脂、化学薬品用途が大幅に伸びました。一方、米麦用途はフレコン化や主食用米の生産量減少に伴って出荷数量が減少しました。また、フィルム製品部門は産業用が増加、農業用はわずかに減少、コンテナ部門の出荷数量は米用の受注増や合成樹脂用途の復調により増加しました。利益面では、懸念していた樹脂原料値上がりの影響が年度後半から顕在化しましたが、通期では一定の範囲にとどめることができたこと、売上が回復したこと、また経費の抑制もあって前期から大きく伸ばす結果となりました。

Vision-2030」のもと、持続的成長と多岐にわたる投資を継続してまいります。

これらの結果、第126期の業績は、連結売上高21,598百万円（前期比1,660百万円増収）、営業利益1,402百万円（同232百万円増益）、経常利益1,583百万円（同262百万円増益）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,102百万円（同201百万円増益）となりました。過去最高益に迫る勢いまで業績を回復したことにつきましては、率直に評価したいと考えております。

新たな企業理念に込めた想い

当社グループは2022年6月、2022年度を起点とする新中期経営計画「PAXXS Vision-2030」を策定いたしました。これにあたり、昭和パックスの歩みと大切な価値観を再認識し、新たな企業理念として「お客様からお客様へ、安心で豊かな未来を願い包装の“カタチ”を創り続ける」を制定いたしました。

当社は創業以来、お客様の製品を全国へ安心・安全・適正にお届けするために必要な産業用包装資材を提供しています。製品を包装する資材は、お客様の顔であると言えます。そのことを忘れず、

当社の直接のお客様だけでなく、さらに先の、その製品を受け取るお客様のことまで考えたモノづくりに取り組んでいく必要があります。また、安全性はもちろんですが、環境についても配慮しなければいけません。当社グループはそうしたモノづくりを通じて、豊かな未来を目指したいと考えております。さらに、それまで存在しなかった石灰窒素用や米麦用のクラフト紙袋を開発して物流の形を変えたように、これからも新しい包装のカタチにこだわりたいと思います。それぞれの内容物の特性を見極め、最適な包装や物流のあり方を、お客様と議論を深めながら共に創造していきたい。新しい企業理念はそうした思いを込めたものです。

新中期経営計画の3つのテーマ

当社グループは長い歴史の中で適切に投資を行い、堅実な経営を続けております。しかし、設備・建屋の老朽化が進んでおり、これらへの投資が喫緊の課題です。こうした認識のもと、当社グループの新中期経営計画「PAXXS

Vision-2030」を策定し、3つのテーマを掲げて、お客様の新たなニーズに最適な包装のカタチでお応えし、持続可能な社会に貢献を続ける企業を目指したいと考えております。

テーマの1つ目は「ニーズをカタチに：お客様が満足される製品を開発・供給する」です。新たなニーズを収集・開拓し、お客様のご要望に応える包装資材を提供いたします。お客様のニーズを受け止め、環境配慮型製品の開発に取り組み、カーボンニュートラル・循環型社会の実現に尽力いたします。さらに、お客様と共同しながら製品テストが実施できるようなR&Dの中心となる開発拠点を整備してまいります。

2つ目が「品質の追求を：いつも安心・安全な品質を素早くお届けする」です。外観・構造検査の精度を高めるAI・画像センサーによる品質管理システム、効率的な生産体制構築のための生産

管理・品質管理のデジタル化は、すでに一部工場を導入しておりますが、これを全国の工場に展開してまいります。また、環境保全など社会的要請に応える工場・設備・製造方法を検討いたします。

3つ目が「仕事に自信を：“働くことの満足感”を得られる職場環境づくり」です。プロフェッショナル職業人の育成に向けて資格取得を支援し、新しい学びの機会を提供します。また、ワーク・ライフ・バランスをかなえる働きやすい職場環境を整えるとともに、個人の発想や挑戦を大切に、後押しする社風の醸成に取り組んでまいります。

当社グループは「PAXXS Vision-2030」の実現に向けて中期経営計画を2段階で構想し、段階ごとに取り組むべき経営課題を着実に実現してまいります。1st STAGE (2022～2026年度)においては、今後の成長のため積極的に設備投資

企業理念

お客様からお客様へ、安心で豊かな未来を願い包装の“カタチ”を創り続ける

新中期経営計画

PAXXS Vision-2030

「ニーズをカタチに」 お客様が満足される製品を開発・供給する
 「品質の追求を」 いつも安心・安全な品質を素早くお届けする
 「仕事に自信を」 “働くことの満足感”を得られる職場環境づくり

1st STAGE
2022～2026

- ・循環型社会の実現へ向かうお客様の要求へ呼応するための投資
- ・競争力のあるQCDの実現に向けた投資
- ・持続的な成長に向けた人材への投資

2nd STAGE
2027～2030

- ・変化するニーズに応える新技術・新サービス提供の拡大
- ・次世代QCDに向けた投資の検討
- ・従業員の豊かさの実現
- ・新たな海外事業に向けた投資の検討

を実行し、企業運営基盤の整備と意識改革に取り組んでまいります。2nd STAGE（2027～2030年度）では製品・サービスを拡充し、顧客満足度を高めることで、次のステージへ向けて盤石な経営基盤を構築したいと考えております。

株主の皆様へ

現在、樹脂原料や重包装袋の原紙価格が値上がりしており、さらに国際情勢も流動化していることから、第127期は不透明できわめて厳しい外部環境が続くことが予想されています。そうした中でも当社グループは将来をしっかりと見据え、計画している生産設備、研究開発、社内システム、労働環境に投資を継続してまいります。創業100年に向けて1年ごとにさらに成長し、皆様に還元できるように努めてまいります。

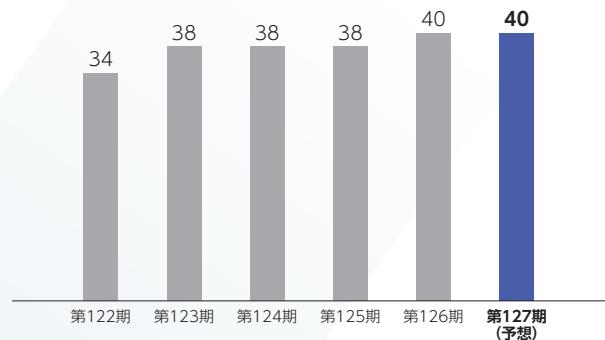
株主の皆様には何卒ご理解をいただき、これからも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 小野寺 香一



1 株当たり年間配当金の推移

(単位：円)



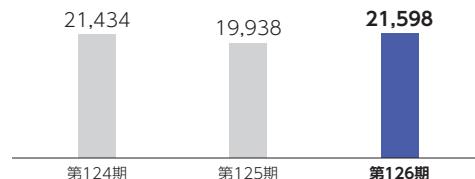
売上高

215億98百万円 (前年同期比 8.3%増)

▶ 売上高について

当社グループの主要事業は国内の素材産業や農産物の生産動向の影響を受けやすい産業用包装資材の製造・販売です。内外の工業生産が前年度の落ち込みから徐々に復調したことを反映し、当社グループの売上数量は年度を通じて概ね前期比プラスで推移、連結売上高は前期比1,660百万円増の215億98百万円となりました。

売上高



営業利益

14億2百万円 (前年同期比 19.9%増)

経常利益

15億83百万円 (前年同期比 19.8%増)

親会社株主に帰属する 当期純利益

11億2百万円 (前年同期比 22.3%増)

▶ 利益について

懸念していた樹脂原料の値上がりの影響は、年度後半から顕在化しましたが、通期では一定の範囲にとどめることができ、経費の抑制もあって、利益も前期から大きく伸ばす結果となりました。

▶ 来期業績予想について

来期につきましては、コロナ禍からの回復傾向が続くことは確実と思われませんが、資源エネルギー価格の高騰、素材全般の値上がりがこの先どこまで進むのか、予測が困難な状況です。当社グループはかような環境でも将来に向けてデジタル化を進めるべく製造設備や検査システムへの投資を行ってまいります。原材料の値上がりが短期的に大きな利益圧迫要因となることは避けられないと思われ。当社グループの次期の業績は、原材料値上がりのリスクを勘案して、売上高22,100百万円(伸長率+2.3%)、営業利益1,170百万円(伸長率△16.6%)、経常利益1,360百万円(伸長率△14.1%)、親会社株主に帰属する当期純利益950百万円(伸長率△13.8%)を見込みます。

営業利益／経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



総資産

293億96百万円

純資産

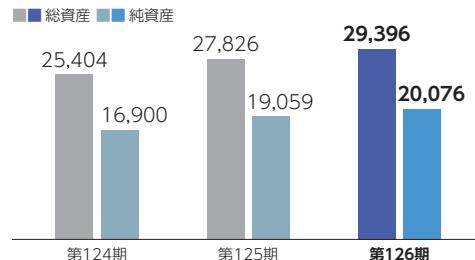
200億76百万円

▶ 資産について

総資産は前連結会計年度末に比べて1,570百万円増加しました。主な増加要因は現金及び預金471百万円、受取手形及び売掛金511百万円、電子記録債権140百万円、棚卸資産118百万円及び有形固定資産146百万円です。

純資産合計は20,076百万円で、前連結会計年度末に比べて1,016百万円増加しています。主な増加要因は利益剰余金932百万円です。

総資産／純資産



重包装袋



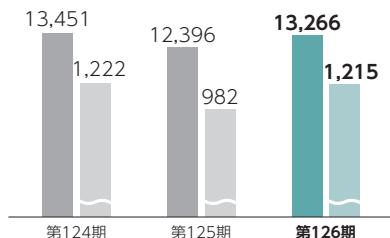
当社のクラフト紙袋の売上数量は前期比で4.2%の増加でした。主力の合成樹脂用途や化学薬品用途が大きく回復し、製粉用途や飼料用途も増加しました。しかし、米麦用途のほか、砂糖、塩用途等が減少しました。

ポリエチレン重袋の売上数量は主要な用途である肥料用のほか化学用品用が回復し、前年度から8.7%の増加、中型袋も5.5%増加しました。

タイ昭和ボックス(株)のクラフト紙袋の売上数量は前期比14.8%増加しました。九州紙工(株)は米袋の減少を一般袋の増加で補いきれず、前期比1.1%の減少、山陰製袋工業(株)は米袋は減少しましたが、工業用途の回復で前期比1.9%の増加となりました。

重包装袋の原材料であるクラフト原紙の価格は、大きな変動はありませんでしたが、値上がり気配が強まりました。

■ 売上高 ■ 営業利益 (単位：百万円)



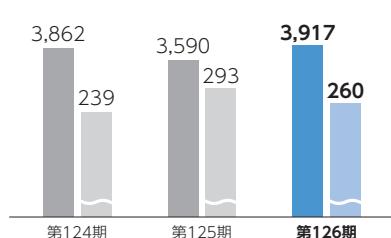
フィルム製品



当社のフィルム製品の売上数量は、産業用は前期比で9.3%の増加でしたが、農業用は3.5%の減少で、合計では4.6%の増加となりました。産業用では、一般広幅ポリエチレンフィルム、アスベスト隔離シート、マスキングフィルム用HQF、熱収縮フィルム「エスタイト」、農業用では牧草ストレッチフィルムが数量を伸ばしましたが、農業ハウス用フィルムが減少しました。

原材料であるポリエチレン樹脂とポリスチレン樹脂は、原油およびナフサ価格の上昇を受けて、前年度の終盤から値上がりし、いまだに下げる気配が見られません。

■ 売上高 ■ 営業利益 (単位：百万円)

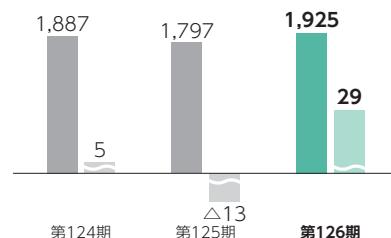


コンテナ



当社のワンウェイ・フレコン「エルコン」の売上数量は、4～9月は米用途の受注増加で、10～3月期は合成樹脂、化学品の生産復調で、いずれも前年度を上回り、累計では前期比9.7%の増加でした。大型ドライコンテナ用インナーバッグ「バルコン」、液体輸送用コンテナライナー「エスタンク」、液体輸送用1,000ℓポリエチレンバッグ「エスキューブ」はいずれも前年度から減少となりました。

■ 売上高 ■ 営業利益又は営業損失(△) (単位：百万円)



会社概要 (2022年3月31日現在)

- **設立**
1935年12月20日
- **資本金**
6億4,050万円
- **主要な事業内容**
クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売
- **主要な事業所**
本 社 〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町2番12号
電話 03(3269)5111

支 店 大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)
工 場 東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、
盛岡(岩手)、掛川(静岡)

子会社 九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、
山陰製袋工業(島根)、山陰パック(島根)、
昭友商事(東京)、タイ昭和パックス(タイ王国)

当社の株式の状況 (2022年3月31日現在)

- **発行可能株式総数** 13,450,000株
- **発行済株式の総数** 4,450,000株
- **株主数** 1,094名
- **大株主**

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社サンエー化研	846	19.1
新生紙パルプ商事株式会社	837	18.9
株式会社三菱UFJ銀行	135	3.0
特種東海製紙株式会社	130	2.9
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	92	2.1
株式会社みずほ銀行	80	1.8
農林中央金庫	75	1.7
株式会社鹿児島銀行	70	1.6
諸藤周平	69	1.6
昭和パックス社員持株会	68	1.5

(注) 持株比率は自己株式(9,961株)を控除して計算しております。

株主メモ

- 事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日
- 定 時 株 主 総 会 毎年6月
- 期 末 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日 3月31日
- 中 間 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日 9月30日
- 基 準 日 定時株主総会については、3月31日。その他定款に定めがある場合のほか、必要があるときはあらかじめ公告する一定の日。
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部
- お 取 扱 窓 口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。
みずほ信託銀行
- 特別口座管理機関 お 取 扱 店 フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00～17:00)
- 未 払 配 当 金 の お 支 払 単 元 株 式 数 みずほ銀行 本店および全国各支店
100株
- 公 告 方 法 電子公告により、当社ホームページに掲載。
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載。

役員 (取締役および監査役) (2022年6月29日現在)

- 代表取締役会長 大 西 亮
 - 代表取締役社長 小野寺香一 生産本部長
 - 取 締 役 野崎 和宏 (株)ネスコ 取締役
 - 取 締 役 湯 口 毅 営業本部長
 - 取 締 役 渡 淳 二
 - 取 締 役 大 舘 諭
 - 常 勤 監 査 役 望月健太郎
 - 監 査 役 櫻田 武志 (株)サンエー化研 常務取締役
 - 監 査 役 井上眞樹夫 新生紙パルプ商事(株) 常勤監査役
- ※渡淳二氏および大舘諭氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- ※櫻田武志氏および井上眞樹夫氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

